

「江戸」の魅力と価値を再考する

～ 江戸の歴史・文化部会における議論の概要 ～

(案)

東京の観光振興を考える有識者会議
江戸の歴史・文化部会

◆ 部会の委員構成等

● 委員構成

(敬称略)

氏名	現職等
田川 博己 (座長)	東京商工会議所 副会頭 (トラベル&ツーリズム委員長) 東京の観光振興を考える有識者会議 委員
大石 学	静岡市歴史博物館館長
後藤 宏樹	江戸都市史研究家 東京都立大学 プレミアムカレッジ非常勤講師
徳川 家広	(公財) 徳川記念財団理事長 徳川宗家第19代当主
徳川 眞木	(公財) 徳川ミュージアム館長
堀口 茉純	歴史タレント・歴史作家

● 会議の開催

日付	主な議事
令和6年5月28日 (火)	プレゼンテーション (徳川家広委員、徳川眞木委員、後藤委員)、意見交換
令和6年7月19日 (金)	プレゼンテーション (大石委員、堀口委員)、意見交換

部会における議論の目的

◎ 東京の魅力を国内外にPRするアイコン・キャッチフレーズである「Tokyo Tokyo Old meets New」は、江戸から続く伝統と最先端の文化が共存する東京の特色を表現



- ◎ 部会での議論を通じて「江戸から続く伝統」の魅力を掘り下げ、東京のブランディングの強化、文化資源を活用した観光振興の促進につなげていく
- ◎ 世界遺産等という目標を見据え、江戸の魅力を発掘・抽出していく。

主な論点

- ・ 有形・無形の様々な「江戸の歴史・文化」を、インバウンド等の誘客において、どのように活用していくべきか
- ・ 旅行者に対し、江戸の歴史・文化の魅力をどのように伝えることが有効か
- ・ 観光資源として長く活用していくために、保存・保全に係る課題は何か
- ・ 後世に継承していくべき貴重な遺産として、どのようなものが考えられるか など

◆ 部会における議論の概要

江戸の歴史・文化が有する魅力や価値について、学術的な見地や観光客の目線など様々な視点から、多彩な議論が交わされた。

「江戸」の特色・独自性

- ・ 町の成り立ちに根差した特色等について
- ・ 長期にわたり維持された「平和」について
- ・ 庶民の暮らしなどについて

今も息づく「江戸」とその歴史的価値

- ・ 江戸城や屋敷、庭園などの建築遺産
- ・ 水道などの土木遺産
- ・ 多様な文化遺産

観光における活用の工夫

- ・ 「江戸」の魅力の奥深さを体験・体感してもらう
- ・ 印象的なビジュアル・イメージやデジタル技術等を活用する
- ・ 江戸の歴史・文化への都民の理解・愛着を醸成する



◆「江戸」の特色・独自性

議論のポイント

- ▶ 江戸、及びその伝統を引き継ぐ東京という街は、どのような特徴やユニークさを有しているのか
- ▶ その特性等は、何に由来しているのか など

主な意見

町の成り立ちに根差した特色等について

- 戦乱の後に築かれた「平和」な時代において武士を時代にふさわしい人材に育てていく上で、仏教・茶道・能は重要な存在であった。
- 江戸時代を通じて江戸は京都など畿内諸都市の文化・文明を摂取し権威化。また全国の大名家（藩）の江戸屋敷（藩邸）を通じた全国諸都市との交流により、情報・文化を蓄積・洗練して全国に発信
- 時代と地名の両面があることも「江戸」の特徴。武家文化と庶民文化の融合にも価値がある。 など

寺社の整備等

- 比叡山延暦寺に見立てて寛永寺を創建
- 琵琶湖を模して不忍池を整備
- 浅草に三十三間堂を建立
- 江戸城龍ノ口に高倉屋敷・伝奏屋敷を設け、京都の衣服・風俗の流入拠点に

人材の移動等

- 【宗教】僧（金地院崇伝、南海坊天海）
- 【芸能】能役者、歌舞伎役者、諸語り、人形師
- 【学問等】医師、儒学者、棋士
- 【産業】様々な職人、商人
- 【縁戚関係】公家から大名家への嫁入り

畿内から江戸への文化・文明の摂取の例（大石委員プレゼンテーション資料から抜粋）

長期にわたり維持された「平和」について

- 250年以上にわたる「平和」「Pax Tokugawana」は世界史的視野でも客観的・普遍的な価値を有する。
- 笑いとユーモアを伴う庶民の高いリテラシーが「平和」の基礎であり、様々な川柳等で見て取れる。 など

- 米艦渡来 名にしおふ 大坂陣の まゝなれば 錆たるつるぎ とぐよしもがな
- 御具足は 春と夏とに 見るばかり
- 太平の 矢狭間は風も ぬけぬなり
- 泰平の 武者は五月に 出るばかり
- 元和から武器は納まる蔵の内
- 名将も 勇士もしれぬ ありがたき
- 竹光は 御代に目出度 道具なり
- 鎧持と 金持違ふ 物でなし
- 人形屋 太平櫃へ 武者を入レ
- 泰平の 鎧は虫が うらをかき
- 劔一が しちやを出ると 無刀也
- 御武徳は 具足をぬがせ 服をきせ

庶民による「平和」
の自覚をうかがえる
落首・川柳

(大石委員プレゼンテーション資料から抜粋)

庶民の暮らしなどについて

- 東京は世界最大の都市(圏)で、人口密度が高い中で安全・清潔が保たれていることは、江戸時代から続いている街の特色
- 長屋の暮らしを通じて隣人を気遣う文化が育まれたとも言える。古着を着回したり、あちこちに花を植えたりと、質素ではあっても楽しく暮らす工夫が和の文化を醸してきた。 など

◆ 今も息づく「江戸」とその歴史的価値

議論のポイント

- ▶ 現代の東京において、どのような建物や場所、景観などに、江戸の歴史・文化が受け継がれているか
- ▶ それらの遺産は、どのような普遍的価値を有しているのか など

主な意見

江戸城や屋敷、庭園などの建築遺産

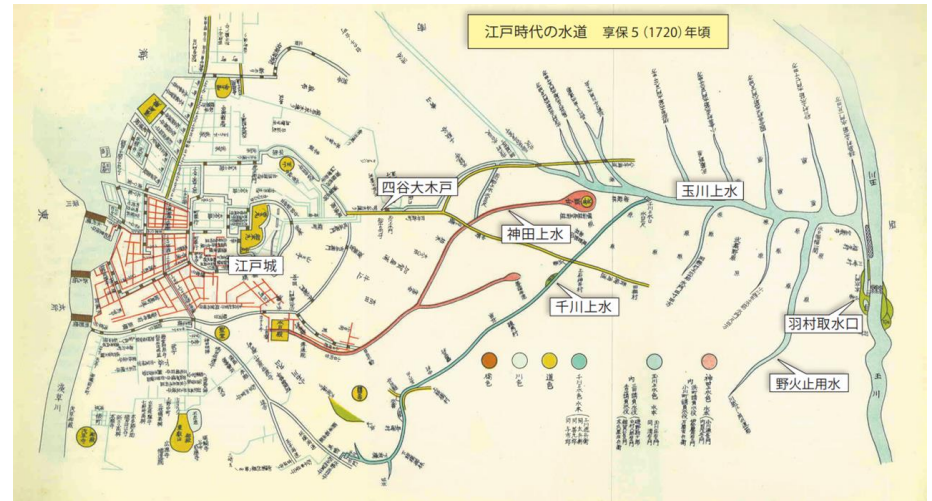
- 江戸城は、石垣や城門、櫓などが非常に良い形で残っている。
- 都立公園として公開されているものを含めて大名庭園が現在もよく保存され、あまり知られていないが大名屋敷の跡もいくつも残っている。
- 上野の東照宮はきらびやかで素晴らしい神社であり、インバウンドにも人気だが、その価値が十分に認識されていない。
- 神田明神の神田祭と赤坂日枝神社の山王祭は、祭礼の神輿が将軍の上覧を受ける格式
- 湯島天神、亀戸天神、深川八幡宮など多くの神社に門前町が発達 など



江戸城城郭内の文化財
(後藤委員プレゼンテーション資料から抜粋)

水道などの土木遺産

- 城下町の建設に際し、井戸水に海水が混じり飲用水の確保が課題となったため、多摩郡の井之頭から神田上水が整備され、その後、都市の発展に伴って遠く玉川から上水を開鑿。いまでも活躍する東京の上水インフラは江戸初期に整備された。
- 「水」は衛生というテーマにもつながる。江戸の都市づくりは計画的に行われており、明暦の大火などを経て、水路の整備を含め東京の区画整備が江戸幕府によって行われた。
- 江戸を中心とする五街道の整備によって自由・安全に旅行・移動することが可能となり、全国規模の文化交流により、いわゆる和風、日本風といった概念が形作られた。
- 日本橋は五街道の起点として賑い、両国橋では出店や花火が催され、市民や旅人が食事やファッションを楽しむ場に。 など



江戸時代の水道
(第2回会議での事務局資料から抜粋)

多様な文化遺産

- 江戸の文化は形を変えながらも現在に息づいており、他者との接し方や街並み、食文化など様々な面で、江戸文化の名残が見られる。
- 庶民文化として現在まで続いているお祭り、祭礼や今も残っている江戸の地名も貴重な財産
- 歌舞伎、講談、落語、浮世絵など多様な文化が庶民の手で発展し、切絵図や番付などを通じて広まり、江戸ライフを充実させた。 など

◆ 観光における活用の工夫

議論のポイント

- ▶ 江戸の歴史・文化を、観光により一層活用していく上で、どのような手立てが効果的か
- ▶ 江戸の歴史・文化の貴重な価値について都民が理解・愛着を深めていくためには、どのような取組が必要か など

主な意見

「江戸」の魅力の奥深さを体験・体感してもらう

- 邸宅・庭園は重要な文化財であり、観覧の仕方の工夫や、そこで詠まれた漢詩と結びつけるなどにより、その価値を深く体験することができる。
- 東京の大名庭園は国元の名所をテーマにしており全国の縮図。様々な庭園を巡りやすくすることは大切
- 東京は安全で、徒歩で移動・散策できることが特徴。水路を活かして川から街を見る観光も魅力的
- 浮世絵で描かれた場所を巡るルートを作ってはどうか。江戸小紋などファッションも観光に活かせる。
- 着物、日本舞踊、茶道、香道、紙漉き等の体験は観光コンテンツとして価値が大きい。



左：邸宅内からの庭園の鑑賞例（徳川眞木
委員プレゼンテーション資料から抜粋）
右：隅田川からの景観（堀口委員プレゼン
テーション資料から抜粋）

印象的なビジュアル・イメージやデジタル技術等を活用する

- 葵の御紋や印籠、鎧など、観光客の関心を惹くには印象的なビジュアルに訴えることが有効
- 「徳川将軍」や「浮世絵」など、共有しやすいイメージを活用することが効果的
- 文化財などの情報をgoogle mapやAR・VRなどを活用して発信することが観光に有益
- 江戸情緒や江戸風情は、旅行者の「東京」のイメージとしてまだ定着しておらず、SNSで写真映えする街づくりなどを進めていくことが効果的



近世大名をイメージさせるビジュアル例（徳川
眞木委員プレゼンテーション資料から抜粋）

江戸の歴史・文化への都民の理解・愛着を醸成する

- 住む人にとって楽しい街であることが観光振興の基本であり、東京の礎である江戸の歴史・文化を、子供たちを含む都民にどう伝えていくかが重要
- 多くの都民にとって、自分たちが暮らす東京に江戸の歴史・文化が息づいていることはあまり意識されておらず、世界遺産というスローガンでPRしていくことは有効
- 「江戸名所図会」のように、今の東京の名所を絵にする等の取組も、東京への愛を育むのではないか。
- 水戸の“郷土かるた”のような取組は、子供が江戸の歴史・文化を共有することにつながる。
- 文化財を未来に引き継ぐため、修復現場に子供が触れる機会を作る、保護の取組を発信する等が大切

部会における議論のまとめ

- ◎ 城郭・庭園や浮世絵などを始めとして「江戸」を観光資源として一層活用する余地は大きく、また、稀有な価値を有する江戸の歴史・文化を世界遺産として打ち出していくことは、東京の魅力を発信する上で有効である。
- ◎ 江戸の歴史・文化の魅力の奥深さや本質を旅行者へ十分に伝え、また、これに触れることができるよう工夫することで、東京という街を観光する価値を高めることができる。
- ◎ 江戸の歴史・文化を楽しむ観光を促進する上では、この街に住む都民の「江戸」への理解や愛着を育んでいくための取組を進めることが重要である。